



マハゼ号

《私が子どもだった頃》（前編） 西大道在住 藤田啓次

私は昭和16年に横須賀の船越で生まれました。国が防空壕を掘るといので家が立ち退きに遭い、父親が海軍工廠に勤めていた関係で3歳の頃ここに引っ越してきました。車のない時代でしたから、船越から乳母車に乗ってきたと聞いています。一番上の兄は九州で特攻隊の飛行機の整備員をやっていました。次の兄は、浜松から満州に渡った後に終戦になり、ソ連の捕虜になりシベリアに3年くらい抑留されました。その兄が外国から帰ってくるというので、お土産を期待して、大道小学校の先まで迎えに行きましたが、帰って来た時の兄の姿は、乞食のようでガッカリしました。

私たちが引っ越して来た時は、田んぼがかなり残っていました。田んぼには、自噴式の井戸があり孟宗竹の筒からジャージャー水が吹き出していました。今から考えると上総掘りで掘った井戸だったと思います。

私の家のすぐ近くに侍従川が流れていますが、横浜屋の方向に川が曲がる手前の一段低くなったところに水門がありました。渇水期に田んぼに水をひくために水を溜めてあったのです。横浜屋の隣は今は駐車場ですが、その頃は田んぼで、そこまでU字溝で侍従川の水をひい



マハゼ（真鯨、真沙魚）

学名： *Acanthogobius flavimanus*

東アジアの内湾や汽水域に生息するハゼで、オーストラリアやカリフォルニアでも見られるが、自然分布ではないらしい。都市部でも見られ、食用や釣りの対象魚として人気がある。全長は15cmほどだが、25cmほどに達するものもいる。寿命は1年だが、2年で成熟・産卵するものもいる。

金沢区は昔から秋になるとハゼ釣りで知られていたが、1980年代頃は水質もひどく、チチブしか釣れなかったりしたが15年ほど前から再びよく釣れるようになり嬉しく思う。

解説：山田陽治

ていました。三浦屋の方にも水路がありました。川幅は、今と変わりませんが深さは子どもが潜もぐってしまうくらいありました。そこには、たくさんの生き物が棲すんでいて、夏になるとヘビと一緒に泳ぐような感じでした。水門を開けた時には、うなぎ、フナ、ドジョウが沢山たくさん捕れました。

場合によっては石で流れをせき止めて、カイボリをやってフナなどを捕まえることもありました。私たちの遊び場は上流が中心で、中流や下流には、ほとんど行きませんでした。侍従川は、台風シーズンになると溢あふれることがありました。私の家の床上ゆかうえまで水は来ゆかしたしんすいませんでした。床下浸水はよくありました。



西大道には、防火用水ぼうかようすいがたくさん作ってあり、私の家のまわりにも3つくらいありました。深さが1メートルもあり、夏になるとそこでも泳ぐことも出来ました。冬になると侍従川で捕まえたフナを逃がして飼っていました。その防火用水は、年に一度、水を抜いて近隣きんりんの人たちが掃除そうじをしていました。当時は、全部の家に水道があったわけではなく、4軒で一つの共同水道けんを使っていました。その水道で防火用水を一杯いっぱいにするには一晩かかりました。防火用水は、消火栓しょうかせんの代わりに爆弾ばくだんが落ちた時にすぐ消せるように海軍工廠かいぐんこうしょうが作ったもののようです。

私たちは西大道から朝比奈あさひなにかけての山でよく遊びました。太いツルにぶら下がりターザンごっこをしたり、お正月になると門松かどまつを取りに行ったりしました。竹馬も山の竹を使って自分たちで作って遊びました。正月になると凧揚げたこあげもよくやりました。夢中になって凧こえを揚げていて肥だめに落っこちたこともありました。凧は電線がないところを狙って、近くの畑から朝比奈あさひなに向かって西向きに飛ばして行っていました。近くに凧の名人ねらがいて、飛ばなくなると持って行って調整ちようせいしてもらっていました。

ベーゴマ、メンコ、ビー玉もよくやりました。ベーゴマは桶おけを逆さかさにして、そこにケンパス布しを敷いて戦わせる場所をこしらえました。ケンパスでは、布の目に入ってしまうとベーゴマが動かなくなってしまうことがあるので、家にあったゴムのカップかっぱを使うこともありました。遊びに夢中むちゅうになってカップかっぱに穴を開けてよく怒られました。

夏のお祭りになると各町内からお神輿みこしが出ました。けんか神輿ではありませんが、町内のお神輿こせが小競り合いおっばまをやっていました。追浜のナタギリからも来ていて、そのお神輿が古くて一番良いものでした。西大道には屋台やたいがありませんでしたので、東大道の屋台で町

内のおじさんたちが、ひょっとこの面をかぶって踊ったり、太鼓を叩いたりするのを羨ましく思いながら見ていました。

朝比奈の人たちとは、普段の交流は少なかったのですが、お百姓さんがリヤカーで野菜を売りに来ていました。相武隧道の先の本郷からも来ることもありました。私が中学生になる頃まで来ていました。朝比奈の野菜を食べて育ちましたが、私は、大麦を炒って挽いた粉に砂糖をまぶしてお湯でこねた、麦こがしという食べ物が好きでした。

大晦日の夜は、10時ころになるとになると、子どもたちは朝比奈峠を越えて鎌倉の八幡様まで歩いて初詣に行きました。夜の朝比奈峠は恐かったですね。朝比奈峠の頂上を越して熊野神社への分かれ道の先の右側に平らな土地がありますが、そこに番屋がありました。井戸がありましたので昔は人が住んでいたと思いますが、廃家になっていたので私たちはお化け屋敷と呼んでいました。その家の辺りに門がありました。昔は朝比奈峠を歩く人を検問していたのでしよう。また、朝比奈峠を越して大刀洗の方に曲がる道の左側に立派な三重塔が残っていました。

鎌倉霊園は、その頃は本物の大砲が置かれた砲台山で、今のように整備された道はありませんでした。東京湾の方向からアメリカ軍のB29が攻めて来ると砲台山の高射砲で防戦しました。私の家の周りにも高射砲の破片のようなものがバラバラと落ちてくることがありました。砲台山になる前は、逗子の財閥の人が古い仏像などをコレクションして飾っておくような場所だったようです。今でも、鎌倉霊園に行くとお宮さんのようなものが残っていますが、それが名残です。終戦後は、その砲台山の地下に掘られた地下壕でよく遊びました。鎌倉霊園が出来たのは、昭和40年代になってからです。

(つづく)



侍従川河川管理協力員について

細川 一雄

中山さんから侍従川河川管理協力員を引き継いで3年目になります。河川管理協力員とは、神奈川県横浜川崎治水事務所から依頼されて1年任期で河川に関する色々な情報を収集し、報告書にまとめて年に4回報告する役目を持っています。

現在、治水事務所は横浜市内の5つの川（鶴見川、帷子川、大岡川、柏尾川、侍従川）の管理を行っており、5名の協力員がいます。

治水事務所が管理する侍従川の区域は平潟橋から上流の大道橋までの間で、大道橋から上流と途中の支流は横浜市の管理になります。上流から河口までわずか4 kmほどの川を県と市で分担管理しています。ちなみに毎年補助金を貰っているのは横浜市からで、大道橋から上流の間の年2回の草刈りと毎月の清掃を行うとの契約で今まで年間12万円の補助金を貰っていましたが、メンバーの老齢化と共に草刈り作業が契約どおり実施できないため、本年は毎月の清掃のみ実施する事にして年間6万円の補助金を申請しました。会にとっては大きな痛手となりますが、必要な器具や材料を節約し、何とか乗り切ろうと思います。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

今年は4月28日に治水事務所（横浜駅から天王町方面へ歩いて15分程）で河川管理協力員の依頼状交付式があり出席しました。依頼状の交付式の後、新しく治水事務所長に就任された網倉所長の話があり、河川管理協力員から得られる情報が非常に役に立っているとの事でした。続いて昨年の治水事務所の事業内容（護岸工事、草刈り、廃棄物の撤去等）の報告があり、1年間で川や河川敷に放置された自転車やバイクが50台以上、ゴミが132^{m³}、重さにして137トンという膨大な量のゴミが河川に捨てられている実態が分かりました。さらに今年度の事業予定内容の報告がありましたが、侍従川については昨年実施している河口域の浚渫工事を実施するとの話でした。続いて各管理協力員からの報告があり、地元の商店会、自治体や小学校と協力して川の一斉清掃を行ったり、筏やボートで川くだりを体験している等の報告があり大変参考になりました。

最後に質疑応答があり、治水事務所が必要としている情報のポイントは投棄されたゴミの情報と修理や修繕、清掃や川の安全に係る情報と、川との触れあい情報（川に親しむ）が欲しいとの事でした。今年神奈川県の水に関する方針が出され、その中に自然環境に配慮した治水を行うと言う考え方が示された結果だと思いますが、私たち侍従会には大変



ありがたい事です。

侍従川についての報告は、毎月1回平潟橋から大道橋までの間を歩き、護岸の亀裂や廃棄物などの写真を撮り添付して報告すると共に、毎月行われるクリーンアップ（管理区域は違いますが）の実施状況も一緒に報告しています。また、侍従会で主催するハゼ釣り大会、葦船作り・筏くんだり、川で見かける鳥や魚や花や虫などの写真も撮り、侍従川がとても自然が豊富な川であることをアピールしています。さらに昨年は近隣の4つの小学校（大道・高舟台・六浦・瀬ヶ崎）に各小学校で侍従川との触れあい活動実績が有れば是非情報提供をお願いしますとの文書を送付したところ、3つの小学校から活動情報を頂き年度末の報告書に添付しました。

治水事務所が最優先で行うのはその名のとおり「治水」ですが、その中に如何に自然を多く残していくかも治水に課せられた仕事と思います。これからも治水事務所と協力し、安全で自然の豊富な侍従川にしていくためにも、お互いの情報交換や意思疎通の機会を多く持ち、皆さんの侍従川に寄せる思いと、建設的な意見を発信する必要があると思います。

侍従川フォトギャラリー



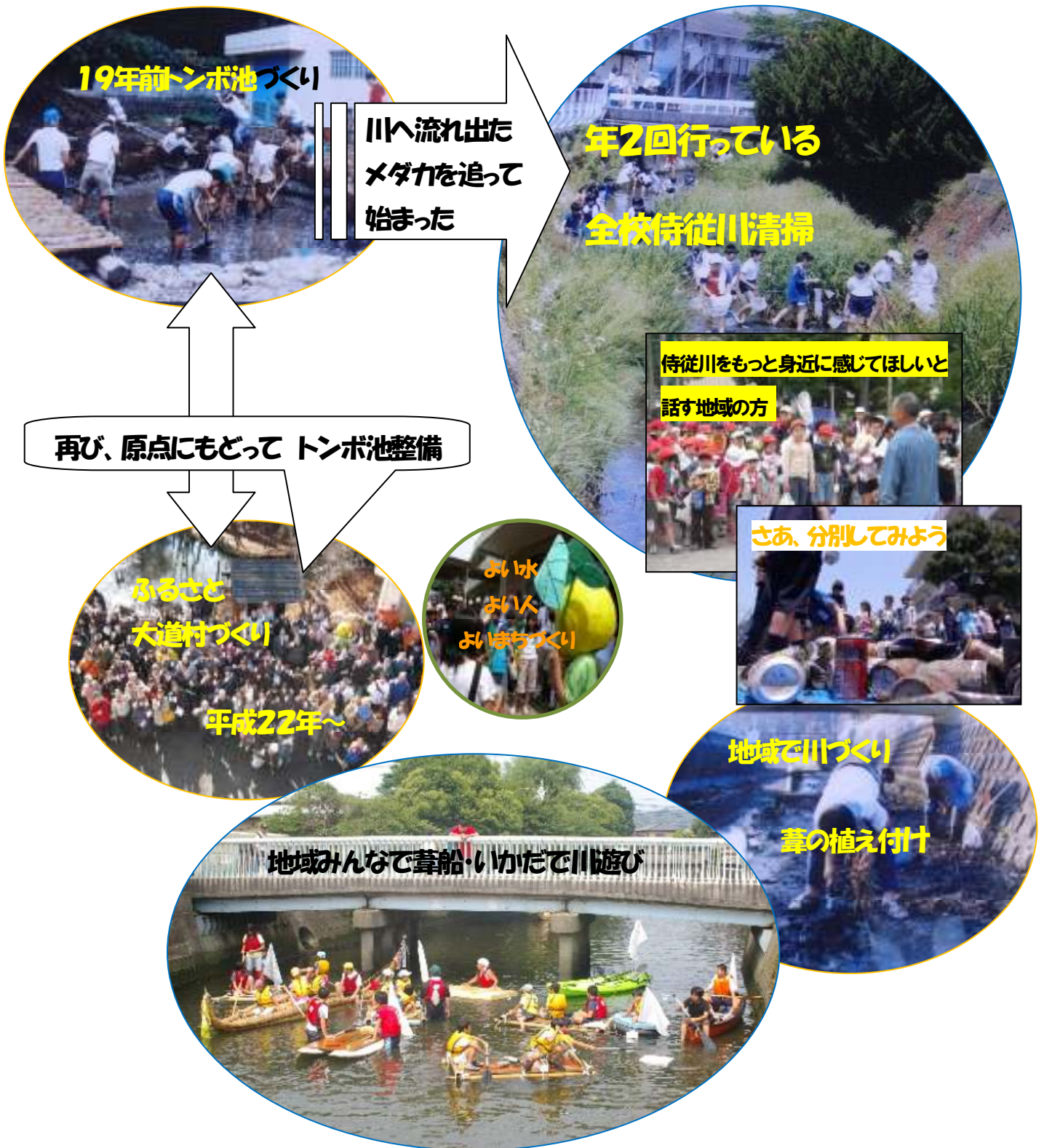
アオサギ 西澤博厚氏撮影

全国行事研で発表してきました。

伊藤 憲生

8月4日～5日にかけて、小学校学校行事研究全国大会が京都で開催され、神奈川県を代表して「侍従川清掃の取り組み」について提案してきました。

トンボ池がつくられたことをきっかけに19年間にわたって、地域と学校、保護者が一体となって築き上げてきた取り組みであることや、「ふるさと侍従川に親しむ会」の存在が子どもと地域の方々との結びつきを深めていることを話しました。



会員のつどい

【活動報告1】

6月18日(土) 17:00~18:00

大道小コミュニティハウス

寺尾 勝廣

6月18日(土) 17時からの会員のつどいは、相川会長のあいさつに始まり、平成22年度会計報告・平成23年度予算案・活動計画・22年度クリーンアップ報告・活動報告と続きました。最後には侍従会会員でもある松本議員、国吉議員のあいさつをいただきました。このあいさつの前に行われた学生部調査活動報告にはドラマがありましたので、そこをクローズアップします。

学生部の発表は高校1年生の金子君の予定でしたが、発熱のため欠席。ピンチヒッターとなった高校3年生の島村さんと高校1年生の金野君は……(-_-)…。どうしよう…。どうやろう…。何話そう……。

そんな時、島村さんの下にメールが着信。悩める二人を救ったのは、なんと!熱にうなされる金子君。携帯メールで原稿を送ってくれたのです。素晴らしい友情・連携に感動した一場面でした。ありがとう。

ホテル観察会は雨天中止でしたが、中身の濃い学生部の発表に感動した夜でした。



相川会長から第22回「みどりの愛護」功労者国土交通大臣表彰受賞の報告



学生部の活動報告

ホテル観察会

【活動報告2】

6月19日(日) 19:00~20:30

大道中学校

島村 真依

6月19日(日)に大道中学校でホテルの観察会が行われました。前日の観察会が雨で中止となってしまったため天気が心配でしたが、当日は晴れて無事に行う事ができました。観察会の参加人数は150人でした。ホテルを見に行こうと思う人がたくさんいることはとても素晴らしいことだと思いました。

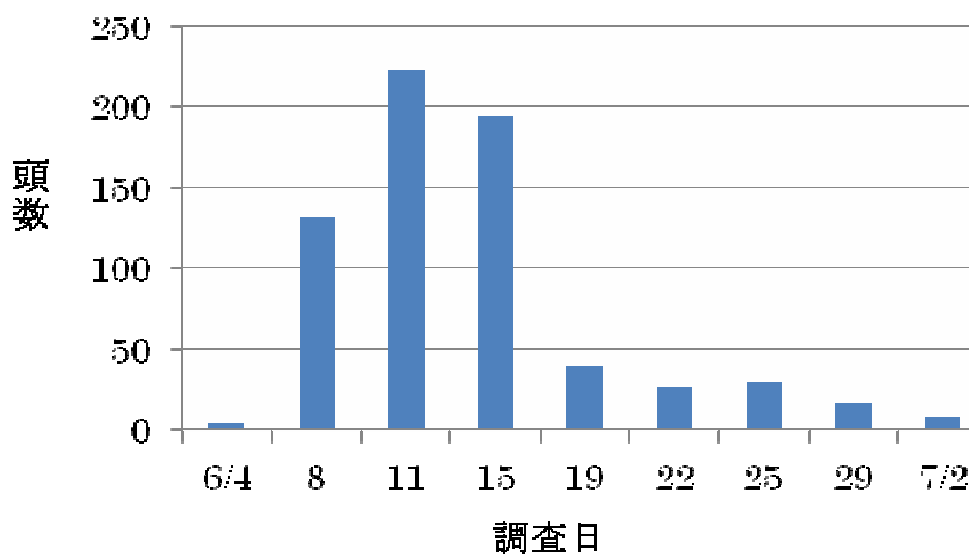
子どもたちにオスとメスの違いなどを説明するとすぐにお母さんやお父さんに教えていました。自分が説明したことを吸収してもらえて良かったです。

大道中でホテルがいつまでも見られるようにこれからも活動していきたいです。

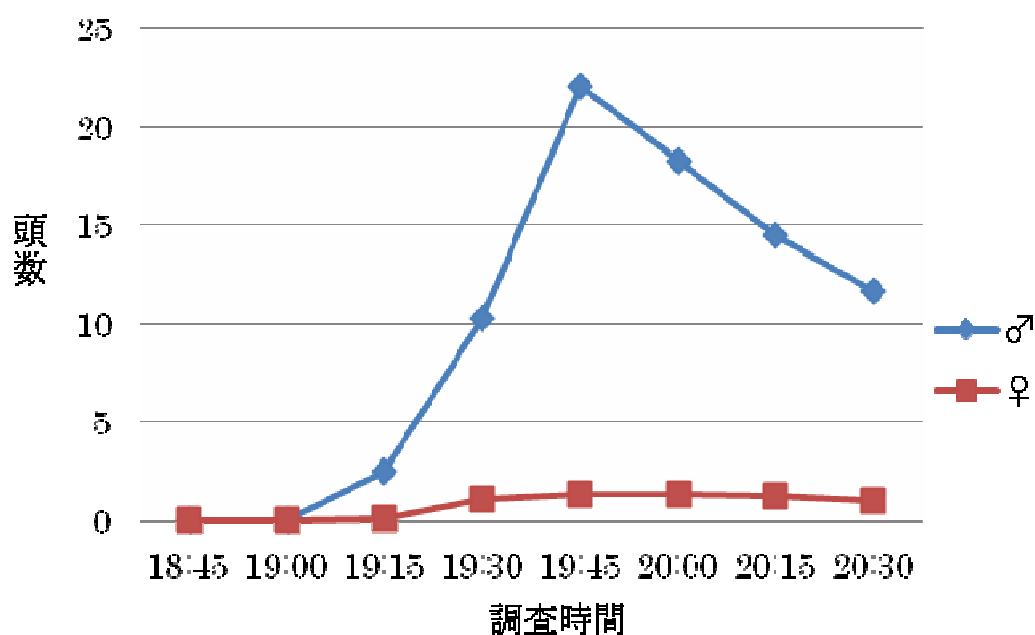
ホタル調査報告

瀧本宏昭

6月4日から7月2日にかけて、大道中学校においてホタルの個体数調査を行いました。1日の発生数が最も多かったのは6月11日で、223匹を記録しました。また、時間ごとに見て見ると、全調査日で19時45分が最大の発生数を記録しました。来年は、ぜひこの記録を参考にしてホタルの観察を、より楽しいものにして下さい。来年度の同時期にホタルの調査を行う予定なので、ぜひ調査にもご参加ください。今年度調査にご協力頂いた方々には、厚く御礼を申し上げます。



調査日毎の合計頭数



時間毎の平均頭数

6月定例クリーンアップ

【活動報告3】

6月26日(日) 9:00~12:00

青木橋~二の橋

細川一雄

参加者：長野政治、長橋輝明、西澤博厚、村田章夫、角田繁、八木場紀元、廣瀬隆夫、高木之靖（パタゴニア）、細川一雄（計9名）

梅雨独特の湿気と暑さ、おまけに小雨が降る中の1日でした。村田さんが休日に（里野橋~青木製作所間）の草刈りをしてくれましたので、今回は青木橋から下流の大道橋に向かったの作業となりました。

今年初の出番となった草刈り機を久しぶりに倉庫から引き出して燃料が無いのに気づきあわててトンカチで混合燃料を購入し作業開始です。名人クラスの腕前の西澤さんが大道橋の上流50mの地点から作業を始め、草刈り機を巧みに操り高く伸びた草を刈り取っていきます。



青木橋下流で草刈り・ゴミ拾い

他のメンバーは青木橋から下流に向かって、草刈り作業と刈り取った草を紐で束ねる作業と、ゴミ拾いを夫々分担して行います。途中、10cmほどの堰の下が砂地になっている場所に、小さな魚が沢山いました。今まであまり魚がいないと思っていた上流ですが、里野橋あたりの砂地と同じように砂がある場所には魚が住み着いているようです。会としてもこのような場所に魚が隠れる場所を石などで確保してやるともっと沢山の魚が住むようになると思います。



堰の下の砂地に小さい魚が
沢山いました

10時10分頃に小休止を取り、近くのスーパーからカキ氷アイスと冷たいお茶を買って来て、乾いた喉と暑くなった体を冷やします。蚊が身の回りをプーンプーンと飛び回ってゆっくり休めません。10時30分から作業を再開し、今回は草を回収する事ができませんので、束ねておいて川の両側に立てて置き、次回のクリーンアップ時に回収します。



青木橋近辺の草刈り後の状態

今回は、ゴミの量が少なく（大きなゴミが無かった？）2袋のゴミ袋で済みました。12時にちとせ園で喉を潤おし道具を掃除して解散しました。今回もパタゴニアの高木さんが遠路参加してくれました（ありがとうございます）。



侍従川大調査～横浜市ハグロトンボ一斉調査

7月16日（土） 9:00～15:00

【活動報告4】

山田陽治

晴れ空のもと、侍従川大調査が行われました。

侍従川の下流から川の始まりまで川の中を歩き、下流・中流・上流といった川の区分による環境の違いを知ってもらうと共に、侍従川の生物調査も併せて実施（調査結果は27～28ページ）。さらに、毎年行われている横浜市ハグロトンボ一斉調査も実施しました。



この日は大潮で潮がかなりひいていて、下流の汐見橋から降りました。

汐見橋付近は海水が入っているため、アサリ、タテジマイソギンチャクなど海の生き物も見られます。大橋こうたろう君が、侍従川初発見となる『フタバカクガニ』『ソトオリガイ』を捕まえました。大道東橋を過ぎると、海水も混ざらなくなり中流と呼ばれる場所になり、アシ以外の植物も増えてきました。



今年はアユがたくさん遡上しているので何匹もとれました。対してハグロトンボは、今年はかなり少なかったです。

昼食後はさらに川を遡って行きます。

横浜屋を過ぎると、三面コンクリート護岸になります。生き物が全く見られない…と、思われましたが、川の中にある石やゴミの下にウキゴリがたくさんいました。

途中、環状4号の下をくぐるトンネルを抜けたり、木の根のブランコで遊んだり、カブトムシを見つけたり…ギボウシの仲間も発見！そして、源流までたどり着き、この川たんけんも終了となりました。



7月定例クリーンアップ

【活動報告5】

7月24日（土） 9：00～12：00

大道橋上流～二の橋

細川一雄

参加者：長野政治、長橋輝明、西澤博厚、村田章夫、角田繁、八木場紀元、石渡博、外川忠志、寺尾勝廣、高木之靖（パタゴニア）、細川一雄（計11名）

台風6号が四国の手前で90度右回転し紀伊半島、東海、関東地方を掠めるように移動し、房総半島沖に去った影響で、気温が下がり猛暑が一休みしたのもつかの間、当日は久しぶりの猛暑日予想でした。

今回は、先月に続き、上流域で唯一草刈り作業が終わっていない大道橋の上流（横浜屋駐車場横近辺）で作業を行いました。このあたりは土の部分が広くて且つ平らなため草刈り機による作業が行える場所のため作業が捗ります。西澤さんが上流から草刈り機を使って作業を開始すると、他のメンバーは夫々下流方面から上流方面に向かい適当な草むらからカマを入れていきます。

しかし、やはり猛暑日の作業は体力を消耗します。9時45分に日陰で休憩を取り、事前にグルックで購入してクーラーボックスに入れておいたお茶と氷で体を冷やします。汗をかいた時の冷たい飲み物はさすがに美味しく、何杯もおかわりをします。

休憩後、外川さんが参加してくれましたので、先月刈り取って束ねておいた草から上に上げて軽トラックで、県営住宅跡地に搬送してもらいます。台風6号の雨で流されてしまうか心配していましたが、思ったより雨量が少なく、川の両側に立て掛けて置いた草は枯れているため、軽くしかも嵩が小さくなって回収作業も楽でした。しかし、当日刈り取った草は、水分もあるためやはり持ち上げるのは非常に大変でした。

軽トラックで5回分の草を回収し11時30分に作業を終了し、ちとせ園で喉を潤おして12時前に解散しました。



《特別寄稿》

28歳HEP初代会長が語る侍従川いかだ下りの魅力と秘密！

福田誠一郎

※HEP (Human Environmental Project) とは関東学院大学の環境サークル

★8月6日(土)に、大道小学校にて『いかだづくり』が行われ、翌日の7日(日)には、快晴の夏空のもと『侍従川いかだ下り大会』が開催されました。

侍従川でのいかだ下りは、8年くらい前に始まり、今ではこの地域の夏の風物詩となっています。取り組みがここまで成長した秘密と、魅力はいったい何なのでしょう。

★私がおはじめて参加した2004年は、大道小学校の裏山から竹をノコギリで切ってきて、それを組み上げていかだをつくりました。緩まないロープの締め方など、若かりし侍従会のお父さんたちに叱咤激励をうけつつ作業し、数日間にわたり朝から夕方まで時間がかかったことを思い出します。

近年のいかだは、浮力の大きい発砲材を、薄いベニヤ板で挟むタイプとなっており、毎年のメンテナンスが非常に簡単になりました。時間短縮できた分、『いかだデザインコンテスト』なるものも行われており、自分たちでつくったいかだに、絵の具で絵を描き、ゴール後には、審査員からベストデザインが表彰されるという新しい取り組みです。

また、大きな怪我や事故もなく、安全に開催されているように思われます。今まで、安全に開催されてきたのは、侍従会会員や、大道小学校の教職員、関係者近隣の賛同企業、そして子供たちの父母さんなど、皆さんの力添えがあったからだと思われます。

最後に、今回の成功に欠かせない役割を担った、4名のお兄さんをご紹介します。浅井さんと瀧本さんは陸上部隊。山下さんと鈴木さんは水上部隊として、参加者の安全と、取り組みのスムーズな進行を支えました。



- ・浅井さん（侍従会学生部初期メンバー。32歳）
- ・瀧本さん（横浜自然観察の森のレンジャー。25歳）
- ・山下さん、鈴木さん（04年時に小学6年生。19歳）



★このように、長年続いている背景は、より良くするための侍従会内での言い争いのような真剣な議論や、侍従川を中心に金沢という地域を愛する気持ちが芽生えているからだと思います。

私が、大学を卒業して社会人になり、5年たった今も、参加してみたいという気持ちになるのは、忘れかけられている人情愛が今も息づいており、魅力となっているからだと思います。

p.s. でも、若者の参加が少ないと思い、気になって参加した感もあります。20代、30代、たまには、ふるさとに戻ってみよう★

トピックス

- ◎6/11（土）源流の森探検&虫捕り 雨天のため中止
- ◎6/18（土）ホタル観察会 雨天のため中止
- ◎6/30（木）六浦小学校3年生 まち探検の一環で侍従川探検…相川会長、山田が対応
午後、侍従川の源流～海をプロジェクターでレクチャー…山田が対応
- ◎7/23（土）六浦小学校親子ふれあい教室で侍従川コースを佐野、坂巻（東海大）、山田がガイド
- ◎7/30（土）、31（日）ジュニアキャンプ in 野島 雨天順延
→ 8/22（月）、23（火）も大雨警報のため中止
- ◎8/15（月）JCN（金沢区、栄区、戸塚区、港南区のケーブルテレビ）『こどもかいぎ in 侍従川』撮影
…侍従川調査と、こどもかいぎインタビューを撮影
参加者…重田綾優、長崎光則、深沢大地、遠藤かんじ、池田周矢、石黒勇次、徳竹風樹、村田奈央
サポート 重田まさこ、山田陽治 9/1より放送されました。
- ◎8/18（木）大道小学校はまっこふれあいスクールの侍従川 川遊びを遠藤（よここネット）、山田がガイド



8月10日から12日にかけて私たちは大人4人、高校生5人、中学生2人の総勢11人で学生部夏季合宿のために愛川ふれあいの村まで行きました。

初日、電車とバスを乗り継ぎおよそ4時間かけてやっと愛川に着きました。愛川に着くとさっそく川に行く準備をします。今年も、中津川にて活動しました。

川では初めに、スローロープを使用した、おぼれた人の救助方法とおぼれた時の対処法を学びました。さて、川での安全講座が終わると、各自で釣りや川流れを楽しんだり、生物採集などをします。気が付けばもう夕方です。帰り支度をし、みんなで帰ります。夕飯までの間は各自自由な時間でした。そして、夕飯は大変おいしいバイキングでした。風呂に入った後今度は夜の昆虫観察です。私たちが泊まったロッジから少しのぼったところにあるクヌギなどのドングリが生えている場所にライトとケースを片手に行くと、ミヤマクワガタやノコギリクワガタ、カブトムシまでがザクザクいます。そして、最近ではほとんど見られていなかったシロスジカミキリも捕獲しました。とそんなこんなであっという間に1日は過ぎてしまいました。

2日目、朝食をとると、また、今日も中津川に行きます。今日は初めから各自で自由に遊びます、やはり内容は昨日とあまり変わらず釣りや生物採集、水切りなどなどです。お昼になるとみんなで「はなや食堂」という食堂でおいしいラーメンや定食を食べました。そこでは去年〇〇くんが忘れていった道具が見つかるというハプニングもありました。昼食をとりまた川に戻り、しばらく活動していると徐々に雲行きが怪しくなりました。と思っているうちに雨が降り出しました。まだ遊び足りない気もしましたが、危険が伴うので撤収しました。

3日目ついに最終日です。朝食のバイキングをとると、また川に行く準備をします。今日は荷物もまとめて川に行きました。そして最終日恒例となっている飛び込みをしました。電柱ほどもある高さを怖いながらも井上、戸井田、古寺君たちが飛び込み、瀧本さんは恐れもなく飛び、なんと中学生のソガ君も飛びました。

あっという間に3日とも過ぎ、さすがに私も含めみな疲れが出てバスの中ではみんな爆睡でした。疲れることも多かった学生部夏季合宿 in 愛川でしたが充実した活動ができました。



夏休み野外教室

【活動報告8】

8月13日(土) 9:00~12:00

遠藤友章

大道コミュニティハウス、ふるさと大道の風景をつくる会、横浜子どもと自然ネットワーク 共催

8月13日(土)に、大道小学校の校庭と、大道コミュニティハウスで、「夏休み野外教室」が行われました。お盆期間中の暑い日でしたが、およそ60人の参加がありました。工作や生きものふれあい体験、科学教室など、さまざまなブースが出され、とても楽しく、また学びのある野外教室となりました。

竹とんぼづくりでは、羽のバランスをとることに悪戦苦闘しながらも、大道の竹をつかった、小さな竹とんぼをつくることができました。どんぐり工作は、どんぐりや小枝、どんぐりぼうしなどを組み合わせて、かわいい置物を作りました。また、どんぐり発電でモーターが回ったときは、大きな歓声があがりました。バードコールは穴を空けた木にネジを入れるだけで作るの簡単でしたが、いざ鳥の声を出そうと挑戦しても、なにか音の外れた鳥の声らしい音が、教室に響いていました。練習が必要みたいです。



生きものふれあいコーナーでは、カエルやへびの迫力に最初はおっかなビックリでしたが、すこしずつ触れる子が増えてきました。ゲンゴロウやイトトンボなど、水辺に住む生きものの展示では、昆虫のかっこよさに、多くの人が水槽を真剣な目つきでのぞきこんでいました。干物釣りでは、普段食べるなじみのある魚から、初めて見るような変わった形の魚まで、様々な生きものを釣りました。竿を使って魚を釣り上げると、ずっしりとした重さを感じることができました。

そのほか、ふるさと大道村の井戸の見学や、顕微鏡を使った土壌生物観察、葉っぱ図鑑づくり、ザリガニ釣り教室などが行われました。

生きものとのふれあい方や遊び方などを、さまざまな視点から、学ぶことができました。今後の自由研究や、野外活動などに生かせる体験ができたのではないのでしょうか。

【出展ブース】 竹とんぼ作り教室(蒲谷さん)、バードコール作り教室(前原さん)

どんぐり工作教室&どんぐり発電実演コーナー(寺内さん)

干物釣り教室(藤巻さん、尾上さん、遠藤)、井戸見学(相川会長)

生き物展示コーナー →カエル(松下さん)・へび(竹内さん)

ザリガニ釣り教室(寺尾さん)、虫捕り教室&水棲昆虫展示(佐野さん)

顕微鏡・土壌生物観察教室(瀧本さん)、葉っぱ版画図鑑作り教室(石黒君、山田さん)

拡大クリーンアップ

8月28日(日) 9:00~11:30

【活動報告9】

細川一雄

参加者：白井麻裕、重田優香、重田あゆ、重田まさ子、前畑由紀子、前畑光矢、岡野恵子、本間千恵子、長崎光則、深沢大地、徳竹風樹、埜田匡、廣田結衣、渡辺泉、平塚健一、小泉啓治、伊藤憲生、押田健、相川澄夫、長野政治、角田繁、八木場紀元、西澤博厚、村田章夫、長橋輝明、外川忠志、石渡博、寺尾勝廣、山田陽治、細川一雄(計30名)

当日8時30分にスタッフが集合し、事前説明の後、会場準備と備品の据付等を行い参加者を待ちます。9時10分から開会式を行い、相川会長の挨拶と実施責任名者の細川から注意事項等の説明の後、第1班から第3班各班の班長・副班長を紹介して参加者の班分けを行いました。開会式終了後、各班の班長・副班長を先頭に各活動場所へ移動しました。



<第1班の清掃風景>・・・新川橋～諏訪の橋



新川橋近辺(ヘドロが深く足を取られます)
ヘドロに隠れているゴミが多数見つかりました。



汐見橋上流
(奥は三艘橋方面)



高橋下流



諏訪の橋下流



諏訪の橋下流(回収した
ゴミを引き上げています)

第1班の分担エリアは、通常清掃を行わないため、多くのゴミが回収できました。また、自動車のバッテリーや掃除機、ラジカセ等、環境に大きなダメージを与えるゴミが多く見られました。回収予定の廃棄自転車は、なくなっていました。

<第2班の清掃風景> ・ ・ 諏訪の橋～二の橋



長島橋近辺でゴミを回収しています。



長島橋近辺



山王橋下流

小さな子ども一生懸命ゴミを拾ってくれました。



山王橋上流

一番生き物がいるエリアです。子ども達がゴミを拾いながら魚を捕まえていました。鮎を2匹捕まえたようです。

侍従川
清掃マップ



<第3班の清掃風景> ・ ・ 二の橋～朝比奈橋



地蔵前の橋から川に降りていきます。



ブックオフの下を掃除



朝比奈橋の下流



朝比奈橋下流

川底がコンクリートで固められているため魚や昆虫はあまり多く見られません。

約1時間半の作業の後、11時に各班共ゴミ拾いを終了し、県営住宅跡地に順次集合。土嚢袋で35袋分のゴミが回収されました。また、自動車のバッテリー3個やラジカセ、掃除機、塩ビパイプ、大きな網など大ゴミや産業廃棄物などが多く回収されました。

川をゴミ箱と考えると確信犯的にゴミを捨てているようですがこれは犯罪です。

11時20分から県営住宅跡地の緑地に移動し、閉会式を開催。ゴミ拾いを終わって集まった人たちに、アイスクャンデーと冷たい飲み物を配って一息ついてから、閉会式を行いました。長野副会長から参加者に川が非常にきれいになったとのお礼の言葉で閉会式終了。続いて回収したゴミを囲み参加者全員で記念写真を撮って解散しました。



アイスで一息



閉会式



回収されたゴミ



回収されたゴミ（裏側から撮影）

～生き物発見記録～
学生部の金子・古寺・鈴木が特従川流域の森で、神奈川県絶滅危惧Ⅱ類のヒラタクワガタを採集。60mmを超える大型な個体は初めてです。



<参加者の皆さんと回収されたゴミ>



だより

昨年9月に掘り始めた希望の井戸は、この7月末に48mの深さに達しましたので、受水槽を設置して完成しました。毎分7リットル以上の冷たい（水温17℃）よい水がこんこんと湧き出ています。

これで、一連の大道村の整備活動は完了しましたので、今後の「大道村」の活動は、このあたりに伝わる昔話を地域の方に語っていただき残していく活動や、歴史資料館の充実など、ソフトの面でも、活動を続けていきます。ぜひ、みなさんいっしょに取り組んでいきましょう。



夜、トンボ池のまわりでお月見ができたらいいな。笛や琴の演奏が出来る人はいないかな？
「金の澤」というくらいだから、「たたら」もさかんだったのでしょうか。
「炭焼き」をして鉄をつくる活動はできないかなあ

第1回「大道よもやま話」

8月27日（土）に大道コミュニティハウス和室にて開催しました。

第1回目の語り手は、三艘町内会会長 大川 基義 様にお願いしました。

三艘の地名の由来や二宮金次郎と白梅公園のつながりなど、興味深いお話をたくさん聞かせていただきました。侍従川沿いには大きな商家が並び、関東大震災前までは舟で品物を運んでいたこともわかりました。

よもやま話は、毎月第四土曜日に開催されます。ぜひ、みなさんも参加してください。



佐野真吾が語る侍従会の思い出 ～天才少女がとったハグロトンボ～

大道小学校のある部屋にシャーレに入った1匹の“ハグロトンボ”の標本が置いてあります。当時中学生であった私はその標本を見て、「かつては侍従川にもハグロトンボがいたのか!」と思いを膨らませました。皆さんは“ハグロトンボ”をご存知でしょうか?ハネが黒く、オスは体がメタリックグリーンな色をした美しいトンボです。また、昔から身近にいるトンボとして、“お齒黒とんぼ”、“神様とんぼ”、“仏とんぼ”と言った呼び方で親しまれた地域もあるそうです。現在の侍従川では6月中旬から10月にかけて多くみられ、会のイベントでも毎年“ハグロトンボ調査”がおこなわれるほどのシンボリック的存在です。しかし、かつて侍従川はおろか横浜市内で絶滅したと言われた時期がありました。今回はそんなハグロトンボのお話です。

1995年夏、“侍従川でハグロトンボ発見!”という記事が新聞に載りました。かつては普通種であったハグロトンボですが、90年代には横浜市全域から姿を消したのです。理由は定かではありませんが、とにかく95年に侍従川で見つかった1匹のハグロトンボは大きな話題となったのです。当時小学校低学年で侍従会幽霊部員であった私は、それ以降ハグロトンボを意識して探すようになりました。そして



月日は流れ2002年(私は中学2年生)のある日、私は尾上先生とハグロトンボについて話す機会がありました。「佐野ちゃんさあ?あれ以来(95年以来)侍従川でハグロトンボは見ない?」尾上先生の問いに私は首を振りました。「95年のハグロトンボは尾上先生が採ったんですか?」「違うよ!当時まだ幼稚園生くらいの女の子が採ったんだよ!あの子は凄かった!人材だった!」。尾上先生の話から、当時の興奮とハグロトンボを採ったという謎の天才少女の偉大さが印象に残ったのでした。



その後ハグロトンボが再び確認されたのは、そんな話をして間もない同年7月の侍従川定例調査でのことでした。川に入りいつも通り魚類調査をしていると、長島橋の下に繁茂したマコモの葉から2匹の黒いハネのトンボが飛び立ったのです。まさか!と思い、私は

急いでトンボを追いかけ、持っていたタモ網を被せて捕獲しました。もう1匹は逃げられてしまいましたが、なんとか捕獲した1匹はまぎれもない正真正銘のハグロトンボでした。私が興奮していると山田さんが写真を撮りながら言いました。「おお！ハグロトンボだ！95年にアヤコちゃんが採って以来だ！」「アヤコちゃんって確か当時幼稚園生くらいだったっていう？」「そうそう！確かその子のお姉ちゃんはサノシンと同年くらいじゃなかったかなあ？朝比奈小学校出身だし知ってるんじゃない？」「えっ！？」こうして、山田さんの話から“天才少女アヤコちゃん”が私の幼馴染の妹“近所のアヤコちゃん”であることが発覚したのでした。

こうして、この年を境に侍従川では毎年数匹のハグロトンボが確認されるようになりました。2003年7月に1匹、2004年7月に1匹、2005年7月に3匹、そして同年11月には初めて幼虫も発見されました。また、時を同じくして2005～6年くらいから横浜市内の各地から目撃情報が多発するようになります。こうして今では横浜市内全域に復活したハグロトンボですが、結局、かつて何が原因で絶滅し、数年間というスピードで市内全域に広がった理由は未だに明らかではありません。横浜の河川環境が改善されたから復活したという人もいますが、過去とさほど変化のない現在ハグロトンボが生息する横浜各地の河川をみて、果たして本当にそうなのか？という疑問も持たれます。

話は戻り、2011年、私は久しぶりにアヤコちゃんとその一家に会いました。アヤコちゃんはもう大学生です。ちなみに、この一家こそ私を侍従会に紹介してくださった家族なのです（ダボハゼ通信1号をみてください）。そして、アヤコちゃんにハグロトンボ再発見の時の話を聞いてみる



と、なんとなく覚えているようでしたが、あまり実感はないようでした。しかし、その当時同行していたアヤコちゃんのお母さんはこのように語ってくださいました。

「珍しいのかどうか分からなかったけど、アヤコがハネの黒いトンボを採ったら尾上先生が大喜びして褒めてくれて！皆さんあの後もずっと覚えていてくださって、尾上先生にもやまちゃん（山田さん）にも挨拶に行かなきゃねアヤコ☆」

是非また侍従会に遊びにきてほしいものです。

『佐野真吾が語る侍従会の思い出』 つづく

侍従川生き物図鑑 No.13
～ シラホシカミキリ ～
(カミキリムシ科)



シラホシカミキリの交尾
横浜市金沢区にて

学名：Glenea relicta Pascoe 体長：8～13ミリ 分布：上流域の山地

羽に散りばめた白い点と背中ストライプ模様が洒落なカミキリムシの仲間で流域では6月から7月頃、上流の沢伝いに生えているタマアジサイの葉の上で見ることができます。♂は♀より小型で色も少し白みがかっています。

琉球生き物紀行 ～美ら島の生き物たち～

～ イボイモリ ～
(イモリ科)

学名：Tylotriton andersoni

体長：14～20センチ

分布：奄美大島、沖縄島、瀬底島、
渡嘉敷島

沖縄県の天然記念物。古い時代から生き残ってきた両生類のようで、体は鎧のような皮膚に覆われ、恐竜を思わせる姿をしています。乾燥に強い完全な陸生種で、幼生は水中で生活しますが、成体へ変態してからは、繁殖期まで殆ど水に入らないで生活します。



沖縄県名護市

監修：熊井（沖縄在住）

朝夷奈の森通信 ~風の忍者より~

飯村優介

盛夏は朝比奈周辺の低い山はキノコも少ない時期がある。

涼しい高い山で過ごすある日の通信。

今回は高さ2000mから2500mの南アルプス周辺。

コメツガやシラビソの森、モミの木に似た感じをイメージして、林の中は深いコケで覆われている。雲ができるため湿っていて気温は10℃~15℃の夏である。

7月から9月がキノコの季節、美味しいキノコもまとめて出る。

ショウゲンジ

さわやかな風味で歯切れ良くどんな料理にも合う。日光のうどん屋で食べたのが最初だった。



ショウゲンジ
ツガタケ科 食

オオツガタケ

旨みが濃くぬめりもあり、歯切れも良い。ツガタケご飯や湯がいてさしみ風などもいい。



オオツガタケ
ツガタケ科 食

ハナイグチ

ぬめりが強く味噌汁が最高。長野、山梨で大人気。



ハナイグチ
イグチ科 食

アカジコウ

ソテー、焼き物が特に美味しい。どんな料理にも向く万能品。



アカジコウ
イグチ科 食

マスタケ

フライにすると名の通りマスやサーモンのフライのようなおもしろい食味が楽しめる。




マスタケ
クワケ科 食

クロカワ

湯がいてさしみ風や焼き物。ほろ苦さが日本酒と良く合う。



クロカワ
イボタケ科 食



虫のきょういく座談会 ～カッコフルイけどカッコイイ生き物～

参加者：山田・荒牧・瀧本・成島・佐野

去年の秋の話である。午後8時をまわった頃、筆者佐野と成島氏は“蔵寿司”を訪れた。そこには、いつものように生き物好きの面々が・・・

佐野「どうもー！遅くなりました。」

山田「おお！待ってたよ！」

荒牧「サノシンクスしぶり☆」

前座談会にも登場した荒牧氏である。ちなみに今回のお話は、前座談会より1年も前におこなわれた会である。なぜ1年前の話は今更引っ張り出すのか？それは、この時の座談会がマニアック過ぎて、筆者佐野がまとめるのに時間がかかったからである。そんなマニアックな座談会を心して読んでいただきたい。

山田「メンバーが揃ったところで皆に聞きたい！ズバリ一番カッコイイと思う生き物は!？」

佐野「僕はなんだかんだ言ってもやっぱり“タガメ”かなあ〜」

佐野は甘エビを頬張りながら、子どもの頃から追いつけたタガメを挙げた。

山田「でた！（笑）相変わらずだのお（笑）」

佐野「じゃあ山田さんは何なんですか？」

山田「“ノコギリクワガタ”！……」

荒牧・佐野「ええええーっ!？」

山田「嘘嘘！ウソだよ！（笑）」

いつもながら読者の皆さんは何が「ええ？」なのか疑問に思われたであろう。子どもやちょっとした生き物好きには人気者のノコギリクワガタだが、ノコギリクワガタ専門のマニアを除いた一般の生き物屋の評価は決して高いものではない。採集難易度や飼育人気度は初級と言える。ゆえに、生き物屋が集うこの場において山田氏の回答は非難を浴びたのだ。

山田「冗談だよ（笑）俺はやっぱり“ゲンゴロウ”だな！あんなにデカくて水中に特化した虫はいないよ☆ちなみにナル（成島）ちゃんはどう？」

成島「う〜ん…私は生き物をカッコイイって感覚でみてないのよねえ。カッコイイよりカワイイ生き物が好きだなぁ♪」

なるほど。成島氏は女性として男性陣とは違う感覚を持っているようだ。

成島「私は“キアゲハ”の幼虫が一番カワイイと思う♪」

山田「えっ!? 毒々しい模様がちょっと気持ち悪いじゃん? (笑)」

成島「それがいいんじゃないですか! 毒々しくして強がってるけど、実は毒がないっていうギャップが!」

荒牧「なるほど! ギャップねえ!」

山田「難しいなぁ…」

山田「じゃあ次、タッキー (瀧本)!」

“タッキー”とは、ご存じの方も多いと思うが、現在、侍従会の若手の主力として活躍中の瀧本氏である。彼と荒牧氏は大学時代の同期だそうだ。

瀧本「僕はカッコよさなら“カマキリ”が一番ですねえ! 種類で言ったら“オオカマキリ”かなあ。」

荒牧「“コカマキリ”じゃダメなの? (笑)」

瀧本「やっぱデカイ方がいい! (笑)」

佐野「カマキリかあ〜。確かにカマキリは僕も好きだしカッコイイとは思うんだけど…いまいち集めたり、調べたりしようとは思わないんだよなぁ…なんでだろね? (笑)」

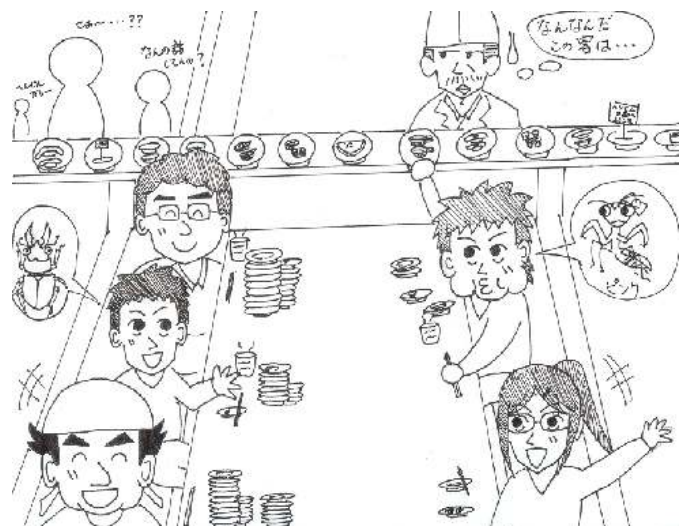
成島「種類少ないし、標本にしても綺麗じゃないからじゃないの?」

佐野「それはあるかも… (笑) う〜ん…外見のカッコよさはいいんだけどね。」

話がだいぶマニアックな方向に進んでいるが、飽きずに読んでいただきたい。いよいよ読者の皆様を“変人の森”へといざなおうと思う。

山田「言いたいことは分からなくもないかな。じゃあ最後に荒牧さんに聞こう!」

荒牧「難しいなぁ〜…カッコワルイのが逆にカッコイイ生き物もいるしなぁ〜」



山田「えっ？どうということ??」

荒牧「例えば僕はノコギリクワガタのもの凄く小さい個体は逆にカッコイイと思うんですよ！」

山田「ええ？ペンチノコが?? (小型個体の大あごは、短く、ペンチに似ていることからこのような呼び方をされる)」

荒牧「そうです！でもペンチノコの中でもさらに小さくて、ペンチ型を極めたような小さい個体ってなかなか見なくないですか？その小ささを極めたカッコ悪さが逆にカッコイイんですよ！」

山田「ナル（成島）ちゃんの言ったギャップに近いね！」

荒牧「そうですね☆」

まさに荒牧氏は“変人の森の住人”と言えよう。多くの人には伝わりにくい話だ。しかし、奇しくもこの話を誰よりも理解できてしまったのが筆者佐野であった…。

佐野「分かる！凄く分かる！！その話をなぞると、ノコギリクワガタとかカマキリは確かにカッコイイんだけど、普通にカッコイイだけなんだよ！」

山田「おっと！（笑）」

佐野「僕はギャップに加えて意外性も魅力ポイントだね！！」

荒牧「ワカル！！☆（笑）」

佐野「さっきのカマキリの話だけど、カマキリは確かにカッコイイだよ！けどすごく稀に、“ピンク色のハラビロカマキリ”がいるんですよ☆」

成島「なにそれ！！カワイイ！！」

瀧本「確かにそう言われると分かる気がする。それは見てみたい！！」

佐野「でしょ？☆カマキリは確かに普通にカッコイイんだけど、それにギャップとか意外性が加わることで、例えば外見がカッコワルくても魅力が増すってわけですよ☆」

山田「なるほど！カッコワルイけどカッコイイっていうのはそういう意味か！！」

座談会一行はようやく全員“変人の森”に入山できた。5人が“カッコイイけどカッコワルイ生き物”について考えを共有できたのだ。読者の皆さんともきっと“カッコイイけどカッコワルイ生き物”についての考えを共有できたに違いない。そんな中、楽しくなってきた佐野は次なるお題を皆に持ちかける。

佐野「じゃあ次は自分の分野外の生き物で、やってみたい分野を発表しようよ☆僕はネクイハムシ、ハンミョウ、あとはやはり水昆虫としてはカタビロアメン……………」

… “変人の森”に出口はない…。

(おわり)

7月度侍従川生物調査&横浜市ハグロトンボ一斉調査 学生部

7月16日(土)

参加者：大森礼子・もも夏・みみか、西田美保・智也、重田まさ子・優香・綾優、
浅井優喜、入江美由紀・つばさ、長崎光則、大橋康太郎、山田陽治、金子英司(記録)
満潮 04:42 18:29 干潮 11:41 23:56

【汐見橋～大道東橋】(下流域) 10:23～11:44

塩分濃度：汐見橋 26‰、高橋 16‰ (‰=1/1000) 気温：30.7℃

生き物：アサリ 5、アシハラガニ 5、アラムシロガイ 1、マメコブシガニ 1、マハゼ 2、
ゴカイ sp2、タカノケフサイソガニ 3、クロベンケイガニ 3、テナガエビ 6、
チゴガニ 3 (目視による確認はもっといた)、フジツボ sp、チチブ 13、
ビリンゴ 19 (目視による確認はもっといた)、タテジマイソギンチャク 4、
クサフグ 1 (目視)、フタバカクガニ 1、ホソウミニナ、ウミニナ 多数、
チチュウカイミドリガニ 2、ソトオリガイ 1、ミズクラゲ 2、オオヘビガイ(殻) 1、
アオダイショウ 1、マガキ 多数 (目視による)、コウロエンカワヒバリガイ、
ユビナガホンヤドカリ 1、イシマキガイ 7 (泥牛橋付近のみ)

ゴミ：鉛筆、ライター、CD、灰皿、防犯ブザー

備考：アナアオサが大量にあった。海藻がもう一種類あった。

今までホソウミニナが多かったが、今回の調査ではウミニナが多かった。

侍従川初記録→フタバカクガニ、ソトオリガイ…発見者はともに大橋康太郎君。

【大道東橋～大道橋】(中流域) 11:44～14:24(12:45～13:10 まで昼食)

塩分濃度：大道東橋 6‰、長島橋 0‰ 気温：31.2℃

生き物：ハグロトンボ 25、テナガエビ 1、オオシオカラトンボ 5、チチブ 16、
ウナギ 1 (目視)、アユ 4、ウキゴリ 2、アオサギ 1 (調査時間外)

ゴミ：ペットボトル 3本、ビニール袋、バースデーカード

【大道橋～金の橋】(上流域) 14:25～15:17

生き物：ウキゴリ 約 50、スミウキゴリ 2 (確認不足なのでもっといたかも)、
ガガンボ sp2、ハグロトンボ 7、ミソレヌマエビ 1、ヤマサナエ (幼虫) 1、
シマアメンボ

備考：三面コンクリート護岸のため生物はあまり見られないが、草が川に覆い被さるところ、石やゴミの下にウキゴリ類が多数いた。中流域ではチチブが優先種でウキゴリはチチブを避けて上流域に生息地をずらしているのだろうか？
三面コンクリート護岸でも環境を整えば生物が棲めることを示唆していると思われる。

植物が繁茂しているところではハグロトンボが見られた。

水が汚かった。このところ気温が高く、またコンクリートの照り返しのため藻類(?)が水底を覆ってしまうほど繁茂するためか？

【金の橋～】(源流域) 15:17～16:30

生き物：シマアメンボ (多数)

備考：時間がなくなったため、調査ができませんでした。

金の橋上流の岩壁にギボウシ類が一株花を咲かせていた。

ハグロトンボは合計で32匹でした。

事務局だより

事務局運営委員 長橋 輝明

◆10～12月の活動予定◆

☆10/ 2(日) 秋の朝比奈の森探検 9:00大道小学校集合

☆10/23(日) 定例クリーンアップ 毎回9:00ちとせ園集合 雨天順延

☆10/22(土), 23(日) 大道コミュニティハウス文化祭

22日は魚とり(9:00大道小学校集合)、13:00～侍従川ミニ水族館づくり

23日(9:00～17:00)は侍従川ミニ水族館のお店番&解説です。

☆11/27(日) 定例クリーンアップ

☆12/11(日) 冬の森たんけん&リース作り

9:00大道小学校集合

☆12/25(日) 定例クリーンアップ

☆12/25(日) 侍従川定例調査～カモ調査～ 13:00大道小学校集合

★活動の詳細(持ち物など)は
ホームページをご覧ください。

<http://jijyukai.web.fc2.com/>

侍従会は「2010年全労済地域貢献助成事業」の対象団体です。

《編集後記》 今年の夏は、猛暑の割には雨が多く、ジュニアキャンプが雨で順延、中止になってしまいました。夏のメインイベントの一つなのにととても残念でした。(MK)